

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道185号 <small>あきつ</small> 安芸津バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	<small>ひろしまけん ひがしひろしまし あきつちよう かざはや</small> 自：広島県 東広島市 安芸津町 風早 <small>ひろしまけん たけはらし よしなちよう やしろだに</small> 至：広島県 竹原市 吉名町 八代谷	延長	6.1km		
事業概要 一般国道185号は、広島県呉市から広島県三原市へ至る延長約72kmの主要幹線道路である。 当該事業は、異常気象時の高潮や越波による路面冠水を回避するとともに、道路幅員が狭く、急カーブなど線形不良箇所が多数ある現道において、朝夕の渋滞などを解消し、安全性・利便性の向上による地域経済の活性化・産業活動の効率化などを目的とした延長6.1kmのバイパス整備事業である。					
H11年度事業化		H10年度都市計画決定		H13年度用地着手	
H17年度工事着手					
全体事業費	185億円	事業進捗率	31%	供用済延長	1.5km
地域の防災面の課題 ・平成16年8月には、台風による路面冠水により国道185号で約3時間にわたり通行止が発生、また翌月9月には、越波による通行規制が発生しており、大幅な迂回を強いられている。 ・また、当該区間は高潮浸水想定区域内（東広島市ハザードマップ）にあることから、台風等の災害時には通行止めの恐れがある。					
課題を踏まえた対策・事業内容 ・並行する一般国道185号は住居連亘地域を通過し、道路幅員が狭く、急カーブ（R<30m：3箇所）、急勾配（i>5%：4箇所）の区間が連続しているため、これらの課題を解消するためにはバイパスによる整備が必要となる。					
事業の効果等 ○災害時の迂回解消を含めた走行時間の短縮等 （215億円（残事業=140億円）） ○地域住民の不安感の解消 ・災害時の迂回ルート確保による不安解消（77億円）				費用 ：（残事業）/（事業全体） 108/177億円 （事業費：94/158億円 維持管理費：14/18億円）	
関係する地方公共団体等の意見 広島県知事の意見： 一般国道185号安芸津バイパスについて、対応方針（原案）案については異存ありません。 安芸津バイパスは、現道において、異常気象時に越波や路面冠水による通行止めが発生している区間があり、防災上の観点から重要な道路であると考えております。 現在、一部区間が供用されているものの交通転換が進まず、バイパスとしての機能が十分に発揮されていない状況となっております。 つきましては、今後とも引き続きコスト縮減に努めながら、計画的に整備を進めていただきたい。					
事業評価監視委員会の意見 事業者から事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。 審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 道路幅員が狭く、急カーブなど線形不良箇所が多数あり、日常生活等に支障をきたしている。 異常気象時に高潮や越波により路面冠水が生じる区間でもあり、防災上の機能が求められている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成21年度末時点で、用地買収は約32%、工事進捗が約30%（全体31%）が完了している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成21年3月に（主）安芸津下三永線～（市）上条浜田線までの区間（L=1.5km）を部分供用している。 引き続き、残る4.6km区間の早期全線供用に向けて事業を推進する。					
施設の構造や工法の変更等 トンネル断面の見直し等によりコスト縮減を図っている。【約0.3億円の減少】					

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性に変化はなく、緊急に対策を実施する必要があるため。

事業概要図



- ※1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。
- ※2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。